

本庄南ロータリークラブ

会
報

例会日 毎火曜日 19:00~20:00
 例会場 埼玉グランドホテル本庄
 事務所 埼玉グランドホテル本庄内 〒367-004本庄市駅南2-2-1
 Tel: 0495-23-0141 / Fax: 0495-23-0141
 E-mail: rotary@mail.honjo.ne.jp

会長 矢部 一臣 会報広報委員会 / 委員長 飯塚能成
 幹事 星野 栄一 / 委員 木村真純 堀川 明



第715回例会

2月3日(火)

発行 平成22年2月7日

司会 / 奈良橋秋夫 SAA
 点鐘 / 19時00分 矢部一臣会長
 ソング / 国歌斉唱
 奉仕の理想
 四つのテスト斉唱
 ゲスト / 早稲田大学院 国際情報通信研究科
 米山奨学生 金相賢 様

会長挨拶

矢部一臣 会長



ロータリー創立記念日
 (The Anniversary of
 Rotary's Establishment)

皆さん、今晚は、今日、2月3日は節分の日です。IN等で「節分」について少し調べて見ました。「節分」は本来、季節の移り変わる時の意味で、立春・立夏・立秋・立冬の前日を指していました。特に立春が年の初めと考えられることから次第に、「節分」といえば春の節分を指すことになったということです。

立春を新年と考えれば、節分は大晦日あたり、前年の邪気を祓うという意味をこめて、追儼(ついな)の行事が行われていたわけで、その一つが「豆まき」ということです。追儼とは悪鬼・疫癘(えきらい)を追い払う行事のことで、平安時代、陰陽師たちにより宮中において大晦日盛大に行われ、その後、諸国の社寺でも行われるようになりました。古く中国に始まり、日本へは文武天皇の頃に伝わったといわれています。

一般的には、豆まきは年男(その年の干支を持つ生まれの人)または、一家の主人が煎った大豆をまき、家族は自分の歳の数だけ豆を食べるとその年は、病気にならず長生きすると言われていました。節分の日、「巻き寿司のまるかぶり」が節分のイベントとして世間に浸透してきたのは、大阪が発祥の地といわれており、大阪海苔問屋協同組合が道頓堀で行った行事をマスコミが取り上げ、全国

の食品メーカーがそれに便乗して全国に広まったそうです。太い巻き寿司を、ラッパを吹くようにくわえて恵方に向かって私語を交えずに丸ごと食べる事により、年間良い事あるそうです。巻き寿司を使う理由は、「福を巻き込む」からで、また、まるごと食べるのは、「縁を切らないために包丁を入れない」という事です。

また、恵方とは陰陽道で、その年の干支に基づいてめでたいと定められた方角の事を表します。方位神の一つである「歳徳神(としとくじん)」はその一年の福德をつかさどる神とされていますが、この歳徳神がいる方角は全てにおいて大吉とされ、この方角を「恵方(えほう)」と呼ぶということです。恵方は別名「吉方(きっぽう)」「明の方(あきのかた)」等ともいわれます。恵方はその年の暦の「十干」によって定まりますが、2009年の場合は、概ね東北東(中国式の方位で誤差があり)の方角ということです。

さて、本日のロータリー情報は、『ロータリー創立記念日』(The Anniversary of Rotary's Establishment)です。1905年2月23日、米国イリノイ州シカゴにおいて青年弁護士ポール・ハリスがロータリーを創始しました。その日ポールは、シルベスター・シール(石炭商)、ガスターバス・ローア(鋸山技師)、ハイラム・ショーレー(洋服仕立て業)の3人と、ノースディアボン街127のユニティ・ビルディング内のローアの事務所で最初の会合を開きました。

ロータリージャパンの『ロータリーの誕生（120万人を擁する組織は、たった4人で始まった）』という記事をここに掲載させて頂きます。

ユニティ・ビル71号室であげた産声

それは、1905（明治38）年2月23日である。このころは、自動車がよくやく実用化の段階に入ったばかりで、まだ馬車の方が幅を利かせており、飛行機もそれより約1年ばかり前、ライト兄弟によって発明されていたが、ほんの2～3分間空に浮かぶことができるという程度であった（日本でいえば、日露戦争の終わった年にあたる）。この年の2月23日の晩、米国イリノイ州のシカゴで4人がデアボーン街にあるユニティ・ビルの71号室に集まった。4人というのは、弁護士のポール・P・ハリス、石炭商のシルベスター・シール、鉱山技師のガスターバス・E・ローア、洋服商のハイラム・ショーレーである。"ガス"ローアの事務所であるこの部屋は狭く、机が1つとあまり掛け心地のよくないですが4つ置かれているほか隅に洋服掛けがあり、壁には写真が1～2枚と工事関係の図表が掛かっている。当時のありふれた事務所であったようだ。4人は、ポール・ハリスが過去5年の間あためてきたアイデアについて語り合った。

簡単にいうと、お互いの事業あるいは職業上の結び付きを通じて、友好的交友関係を築くことができるはずであり、またそうすべきであるというのである。仕事の上での関係が、友情の妨げとなることはない、ポールは考えたのである。

では、ポールが集めたこの4人はどんな人であったろうか。ポールは、その著『THIS ROTARIAN AGE（ロータリーの理想と友愛）』の中で、この点につき次のようなことを書いている。

「湖畔（こはん）の一都市を舞台として、一場のドラマが始まった。このドラマがどんな意義をもつものであるか、何人も予測し得たものはいない。登場人物は、世の平凡な道を行く実業家および職業人であって、必ずしも一頭地を抜くほどの特質を備えた人ではなかった。しかし、一般的な意味で、"立派な人"と表現しても差し支えない人々であり、4人とも気が合っていて仲が良く、めいめい業種の異なる立派な事業あるいは職業を持っていた。彼らは、信仰、人種、政治的意見の相違に関係なく集まった人々なのである」

その晩、71号室で語り合った4人は、話が進むにつれ、職業を通じて結ばれた関係は、個人的な友情に発展させることができるし、またそうすべきであることを、お互いに一段と深く認識し合ったのである。そして、さらに話し合いを続けた結果、このような交友関係をはぐむためには、何らかのクラブをつくるのが一番良いという結論に達したのであった。

ロータリークラブという名称は、このとき、その場で決められたわけではなかったが、実質的には、1905年2月23日の晩に開かれたこの会合が、世界最初のロータリークラブの第1回の会合となったのである。

この文章は、「国際ロータリー・広報提供」として『ロータリーの友』1969年2月号に掲載された「ロー

タリーの始まった日」というタイトルの記事の冒頭です。ポール・ハリスが若いころ、5年の予定で、放浪生活をしてきたことは、ご存じの方も多いと思います。予定の5年に、3か月を残していたころ、弁護士事務所を開くためにシカゴにやってきた、と『MY ROAD TO ROTARY（ロータリーへの私の道）』には書かれています。

大都会につくる信頼関係

彼が3人の仲間と会合を開くに至った道のりはそのようなものだったのでしょうか。同書には、シカゴに戻ると、またいやな生活を送らなければなりませんでしたが、元気だけはおう盛でした。ウィークデーにはがっかりさせられるようなこともたくさん起こりましたが、それでもまあ、よかったのです。というのは、仕事が忙しくて、自分自身のことなど考えている暇がなかったからです。これに反し、日曜や休日はもの悲しい日でした。日曜の朝は下町の教会へゆけばよかったのですが、長い日曜の午後はどうにもならないほど孤独でした。あの、私の故郷のニューイングランドの谷間の緑の原や、心優しい昔の友人たちを、どんなに恋こがれたことでしょうか。と、その心境が書かれています。そして、ある晩、私は同業の友人に連れられて、郊外の彼の家を訪れました。夕食後、近所を散歩していると、友人は、店の前を通るごとに、店の主人と名を呼んで挨拶するのです。これを見て私は、ニューイングランドの私の村を思い出しました。そのとき浮かんだ考えは、どうにかしてこの大きなシカゴで、さまざまな職業からひとりずつ、政治や宗教に関係なく、お互いの意見をひろく許しあえるような人を選び出して、ひとつの親睦関係をつくれぬものだろうか、ということでした。こういう親睦関係ができれば、必ずお互いに助け合うことになるはずですが、このときが、ロータリーの基礎となるインスピレーションを得たときなのでしょうか。しかし、彼はすぐにその考えを実行に移すことはしませんでした。その理由について、何カ月も、いや、何年も経ちました。大きな運動を生かすためには、信念をもった人が、しばらくひとりで歩くことが必要なのです。私はほんとうにひとりで歩きました。そして最後に、1905年2月、3人の若い実業家を呼んで会談し、私たちすべてが、自分の村で知っているような、お互いの協力と気取らない友情を深めるための簡単な計画を彼らの前に提示しました。彼らは私の計画に賛成してくれたのです。ここで、冒頭の文章と日が重なります。誌面の都合で、『MY ROAD TO ROTARY（ロータリーへの私の道）』から拾って簡単に、ロータリー前夜の話を紹介しましたが、ポール・ハリスの、生まれ故郷ラシーンでの出来事から始まり、少年時代をすごしたウォーリングフォードでの生活、5年間の放浪生活、これらのすべてにわたる長い物語があるのだと思います。また、語られることはほとんどないのですが、最初に集まったほかの3人にも、そこに至るながい道のりがあったに違いありません。

20世紀初頭、シカゴ・・・ロータリーに適した都会

ロータリーのような運動が始まる時期としては、この20世紀の初めほどよい時期はあり得なかったでしょうし、それを育てる都会としては、男性的で、しかも積極的な、この矛盾に満ちたシカゴほど、適した町はほかになかったろうと思います。当時シカゴがなやまされていた悪は、アメリカの至るところに見られました。概していえば、ビジネスは毒されていたのです。消費者や従業員、あるいは競争相手といったものに関して、高い倫理的な基準にあうようなことは行われていなかったのです。自分たちの住む町を良くしようなどという精神は、ほとんどどこでも低調でした。すべてが良いほうに変わってゆくべきときでしたし、そういうときがこなければならなかったのです。

シカゴというアメリカの中西部第一の大都会から、そして人種的、政治的、経済的、宗教的な極端と極端とが出会い、衝突し、そして究極的には、何か均質なものができ上がりつつあった大きな社会の渦巻のなかから、ロータリーは姿を現わしたのです。現在でも、人種の坩(る) 堝(つぼ)アメリカはシカゴでなおはげしく煮えたぎっています。愛国的な市民たちは、最後にはおいしい料理ができることを心から信じながら、質のよい材料をこの坩堝のなかに入れる努力を続けています。ロータリーは1905年、湖のほとりの町で上演されていた芝居の一場面だったのです。この場面の登場人物は普通の階層の人たち実業家と専門職業人でありました。同種の職業の他の人たちととくに区別されるような点はないかもしれませんが、この人たちは、よく使われる言葉で「社会の有益な分子(ベター・エレメント)」と名づけてよい人たちを、かなりよく代表していたといつてよいのではないのでしょうか。

ポール・ハリスは、ロータリーに至った背景をこのように表しこの章を結んでいます。これが、現在、世界に120万人を擁する国際ロータリーの、草々の物語です。

(引用文献 『ロータリーの友 1969年2月号』 『MY ROAD TO ROTARY(ロータリーへの私の道)』 『ロータリーの友』2004年8月号)

(HP『ロータリー・ジャパン』から)

幹事報告

星野栄一 幹事



- ・2月7日のIMは全員で参加したいと思いますので、よろしくお願ひします。
- ・3月30日(月)は、熊谷西RCとの合同例会となります。
- ・各連絡事項、週報等、回覧をご覧下さい。

ゲストのスピーチ



早稲田大学院

国際情報通信研究科

米山奨学生 金相賢 様

早稲田大学国際情報通信研究科博士課程3年の金相賢です。米山奨学生として本庄南ロータリークラブの皆様大変お世話になっております。今日は韓国の伝統酒であるマッコリについてお話します。韓国の景気低迷が長期化するなか、庶民のお酒であるマッコリが大変人気だそうです。マッコリは、もち米、麦、小麦粉などを蒸して麴と水を交ぜ、醗酵させたお酒で、韓国で一番古い歴史を持つお酒です。現在は政府が認可した醸造場でしか生産されていないのですが、昔は農家で個別的に製造して販売したこともあり、マッコリを農酒と呼ぶ人も多かったです。製造方法はとても簡単で、もち米・麦・小麦粉などを蒸した後に水気を乾燥させます。その後、麴と水を交ぜて適正温度で醗酵させてから、布などで絞り出せば完成になります。米を洗って飲めるまでの時間が1週間ぐらいで、米と麴さえあれば誰でも作ることが出来たので、庶民の強い味方として古くから愛飲されました。お酒を飲むことはストレス解消にも良いですが、アルコール度数が高いと肝での分解に時間がかかり、健康に悪い影響を与えます。マッコリはアルコール度数が6~7%で、体に大きな負担を与えず、また人に必要なさまざまな栄養素を含んでおります。マッコリは酵母が生きていて醗酵が進んでいるという特徴を持っております。また、タンパク質を含めたビタミンBなど栄養成分が多く、1.2%のタンパク質が入っており、牛乳のタンパク質3%と比べても決して少ない量ではないということが分かります。良いマッコリは甘い、酸っぱい、辛い、渋い味がよく混ざって清涼感を持つことが知られております。最近研究では、マッコリが癌を予防して、損傷された肝臓を回復させ、血中コレステロール値を下げる効果があると発表されました。また更年期障害解消に効果もあり、必須アミノ酸とビタミンB乳酸菌などを含んでおり、血液循環にも良いそうです。本庄南ロータリークラブの皆様もぜひマッコリを飲んで、健康になっていただければと思います。もちろんほどほどに飲んだ時の話ですが、、、



会員スピーチと委員会報告



会員組織委員会 山田 勝治 委員長

現場から見た経済事情

平成 20年度は、前年から続く原油高で、燃料価格が異常なまでに値上がり、経済も好調で推移。しかし 5 月頃、アメリカのサブプライムローンに端を發し、ジェットコースターから急降下する様に景気が一気に後退。企業のリストラが起こり失業者が続出で先行きは真っ暗で期待が出来ない。



会員研修委員会 浅田 進 委員長

「友」2月号を読んで

2月はロータリー理解推進月間です。横組のP6～ロータリー財団国際親善奨学生OBの世界での活躍が紹介されております。我々の善意が役立っていることを感じられます。

又縦組P2「手がないという能力」足を手の代わりにして教師を務めている話は実に感動的です。

横組P3識字率向上の手法としてCLEの解説があります。

国際奉仕委員会 戸谷 全克 常任委員長



1月20日の例会でも申し上げましたが、各支会を通して「書き損じはがき」の回収袋が回っていることと思います。

ありましたら、今月中に袋にお入れになるか、支会長さんにお届けになるか、又は例会にご持参なされるか、いずれでも結構ですからご協力をお願い申し上げます。

もう一つは「地雷被害者への支援活動」で、「1,000円」の募金のお願いでございます。すでに先週の「みさご」での移動親睦例会でも9名の会員からご協力を戴きました。

本日も大澤事務局員が回りますので、宜しくお願い申し上げます。

ゴルフ部 堀口 孝利 部長



地区大会記念チャリティーコンペが、来月3月16日(月)に東松山カントリーで開催されます。当クラブからは、矢部会長、山田さん、安藤さんと堀口4人で参加いたします。応援宜しくお願いします。

出席報告

松島雄二 出席委員長

会員数	出席	M U	欠席	出席率
22名	12名	5名	10名	77.27%

例会予定

- 2月7日(土) I M G本庄
 2月10日 振替休会
 2月17日 卓話 本庄市倫理法人会
 会長 澁澤健司 様 G本庄
 2月24日 移動例会 L a l a
- 3月3日 会員スピーチ(会員組織) G本庄
 3月10日 家族例会 みさご
 3月17日 卓話 国際ロータリー第2570地区
 ロータリー財団部門委員長
 小池貞作 様 G本庄
 3月24日 フリーディスカッション(会員組織)
 G本庄
- 3月30日(月) 熊谷西RCとの合同例会
 熊谷市 レストランアーク(予定)
 3月31日 振替休会